

地域支援かわら版

第4号

令和4年3月10日（木）発行

埼玉県立狭山特別支援学校 〒350-1327 埼玉県狭山市笹井 29 5 8
 でんわ：04-2953-1612
 Fax : 04-2969-1033
<https://sayama-sh.spec.ed.jp/>



地域支援部
のテーマ

ささえあう
やさしい
まちづくりを

子どもたちが地域に戻ったとき、気軽にサポートしてくれる人、やさしく見守ってくれる人がたくさんできますように……と、地域に優しさの種を蒔く活動をしています。

巣立ちの季節、地域の一員として

校長 田中 達哉



校庭の木々は新芽が顔を出し春の準備が日ごとに進み、学校は卒業式の季節となりました。本校でも小学部6年生、中学部3年生が卒業式に向けて準備を始めています。

卒業式では、入退場や証書の授与など折り目正しい動きが、式そのものを一層おごそかなものにします。手前味噌な話になりますが、本校の児童生徒一人一人の所作は、総じて実に美しいと誇れます。例えば授業中、先生から指名されて前に出て発表する際、起立した後、椅子をそっと押して机に入れてから前に出るなど、美しい所作を自然に行っています。もちろん、この裏には日々の繰り返しの支援があります。卒業式は、こうした日々の教育活動の集大成ともいえる行事です。練習をして本番に臨みますが、卒業という意味を知り、中学部、高等部での生活に意識を向けられることがより大切と考えています。学習指導要領でも卒業式などの儀式的行事について「学校生活に有意義な変化や折り目を付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるようにすること」としています。

特に中学部の生徒は、仲間と一緒に学び合う中で、必要な知識・技能を育て、人間わかくさ高等特別支援学校に巣立っていきます。高等部での3年間の学校生活を終えると、いよいよ社会の仲間入りです。現在、特別支援学校を卒業した生徒たちの進路先は、必ずしも潤沢ではないのが実情と受け止めています。それでも一般的な高卒で就職するルートその他、就労移行支援、就労継続支援A型・B型はじめ社会につながるルートはいくつか用意されています。

こうした中、この度、本県で「埼玉県5か年計画～日本一暮らしやすい埼玉～」が策定されました。あらゆる人に居場所があり、活躍でき、安心して暮らせる社会である「日本一暮らしやすい埼玉」を実現するため、3つの将来像「安心・安全の追究」「誰もが輝く社会」「持続可能な成長」を目指す計画です。「誰一人取り残さない」「多様性の尊重」といった理念が盛り込まれています。そして更に視野を広げると、昨年開催された東京オリンピック・パラリンピック2020、そして今年の北京オリンピック・パラリンピックは、全世界的規模で共生社会の実現に向けた大きなメッセージでもありました。社会は一步ずつですが、着実に多様性を尊重し、誰一人取り残さない方向に進んでいると思います。とはいえ共生社会の実現は、身近な関わりから進展していくものと考えています。この意味で本校を巣立っていく子どもたちが自立して、近い将来、地域の一員として迎えていただき、活躍することができれば、これほど嬉しいことはありません。

狭山特別支援学校は地域の特別支援学校として、地域の皆様の力を借りて育てていただくとともに、引き続き、地域の特別支援学校として、センター的機能を発揮して参ります。今後とも狭山特別支援学校への一層のご理解、ご協力をお願いいたします。

1年間ありがとうございました。来年度もよろしくお願ひ致します。

